

テーマ 「成長分野」への挑戦

地域の豊かさを共有する農商工連携リサイクルシステム

資源エコロジーリサイクル事業協同組合

地域に根差した独自の食品廃棄物等のリサイクルシステムが、良質な堆肥を農地に還元し、農作物の流通を含めた資源循環型社会を実現する

背景と目的

平成13年5月の「食品リサイクル法」施工により、資源循環型社会を目指した取り組みに注目が集まり、消費者意識も変化しつつある中で、複数社の経営資源を結集した組合組織としてできることを模索した。そこで、地域に根差した独自の食品廃棄物等のリサイクルシステムを構築し、良質な堆肥を農地に還元し、農作物の流通を含めた資源循環型社会の実現を目的として本事業に取り組んだ。

事業・活動の内容

廃棄物排出者（家庭、事業者、

公共施設）からの廃棄物を処理事業者（当組合）が収集運搬し、車載型ごみ処理システムにて処理し、定期的に堆肥利用者（なっば会）へ供給している。堆肥利用者（なっば会）は、その堆肥を使い、農作物を生産し、消費者（加賀市民、全国の消費者）へ供給している。

廃棄物排出者である家庭は同時に、消費者でもあり、家庭から生じたゴミが本システムにより、農作物という形で、再び家庭に還元される喜びが、地域の精神的な豊かさを生み出している。

成果・効果

当組合では、ごみの収集運搬業から処分業へ進出し売上増加を図ることで、経済的豊かさを実現し、社会的意義ある取組による従業員意識の向上と合わせて、当組合の持続的発展の土台を作ることができた。



▲車載型処理装置

平成19年3月に策定された「加賀市バイオマスタウン構想」において、当組合が構築した農商工連携リサイクルシステムはその中核を担っており、その成功は、バイオマスタウン構想の実現を大きく後押しすることが期待できる。

地域・社会に対しては、ごみ排出量40%削減及び行政コストの削減を実現している。また、平成17年以後、28名の雇用創出を自治減している。特に、若年層の採用を強化し、定着率も高いことから、現在では数名が中核人材として活躍するまでに至っている。

今後この農商工連携リサイクルシステムの成果をきっかけとし

て、雇用創出や新事業投資が連鎖すること、環境をテーマとした地域発祥の地方経済立て直しを実現して行くことが期待できる。

また、経済的豊かさに留まらず、地域住民にとっての精神的な豊かさの共有を今後も進めていくことが期待できる。



▲加賀市バイオセンター計画

資源エコロジーリサイクル事業協同組合

住所：〒922-0446
石川県加賀市塩浜町ケ48
設立：平成8年1月
出資金：22,000千円
電話：0761-74-5323
URL：http://www.shigenn-eco.com
業種：廃棄物処理業
組合員：5人
組合専従者：6人